

(仮称)南部コラボセンター基本構想がまとまりました



地域の人たちの声を 新たなまちづくりに生かして

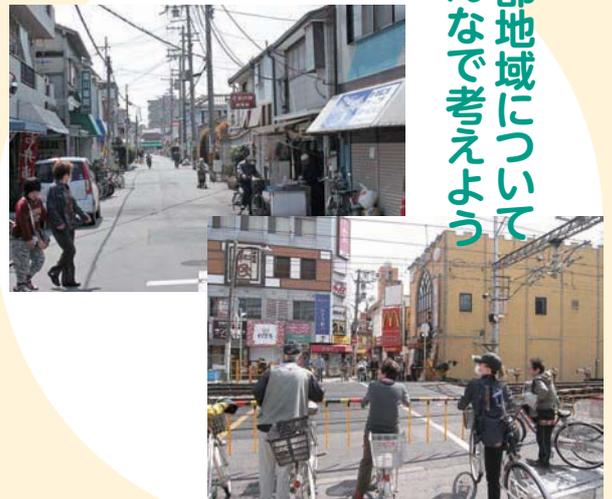
豊中市の南部地域は戦後、商工業が発展し、庄内駅を中心ににぎわいを見せてきました。しかし、近年は少子高齢化率が市平均より高くなり、活気に陰りが見えるなど、課題が生まれています。

そうした中、市では南部地域の活性化に向けた拠点施設となる「(仮称)南部コラボセンター」を整備するための基本構想をまとめるなど、まちの人たちと一緒にさまざまな事業や活動を進めています。

今回は、南部地域の新たなまちづくりの取組みについて地域の皆さんの思いを交えながら紹介します。

(南部地域連携センター・庄内公民館)

南部地域について
みんなで考えよう



古きよき魅力あるまちを さらに住みやすく



岩切あやさん
(豊南町南)

まちはたくさんの夢や 可能性を秘めている

これまでのサッカー経験を伝えていきたいという思いから、6年前に島田フットボールクラブのコーチを引き受け、中学生チームの監督をしています。最初はサッカーを指導するだけと思っていましたが、続けるうちに生活習慣の指導も望まれるようになりました。本来は家庭内で注意し、教えるべきことでも、「親の言うことは聞かないから、もっとコーチから言ってもらってほしい」と要望されることも。親以外の大人も子どもの教育に関わってほしいとい

豊南町で育って、結婚した今も住んでいて、住み慣れた心地良さを感じています。ただ、子どもができてから、新たな視点でまちを見るようにもなりました。昔ながらの商店や市場の雰囲気は温かくとても好きですが、おむつ替えや授乳のスペースを設けている店舗がほとんどなくて、子ども連れでの買い物は大変。「みんなはどうしているんだろう?」と思いました。

こうした経験から、困っていることや不便に思う点を、皆が共通の認

子どもたちの 可能性を伸ばすために、 多彩な人材が 集まってほしい



柴 暢彦さん
(庄内宝町)

う空気があるのは、この地域の良さかもしれません。

コーチをしながら感じているのは、いろいろな特技を持った大人が集まって子どもたちの可能性を伸ばしてあげたいということ。私自身はサッカーというスポーツを通じてですが、もっと多彩な人材が集まり、子どもたちが他の運動競技にも触れられる機会が増えるようになってほしいと思います。スポーツに限らず音楽、芸術でも、興味を持てることが多ければ多いほど、夢も広がるのではないのでしょうか。

識として持てることや、悩みを相談したり、話し合ったりできることの大切さを実感しました。お互いの問題を一人でも多くの人が理解すれば、もっと安心して暮らせるまちになります。また、この地域には、空襲など戦争を体験された高齢者がおられます。戦争を知らない世代に体験を語ってもらうことも必要かもしれませぬ。皆で知識を増やしなが

ら、いろいろな人と出会い、語り合える場があるとうれしいですね。

(仮称) 南部コラボセンター基本構想で掲げる 5 つ の 基 本 方 針

南部地域連携センター(庄内公民館)では、これらの方針に沿って個々の事業の実施はもちろんのこと、センター建設についても取り組みます。



1. 地域へのほこりと南部地域のブランドを市民が主体となって創造する
2. 生活面の課題を改善し、「いきいきと」「充実した」暮らしと福祉を実現する
3. 地域を担う次世代を地域全体で育む
4. 老朽化し、散在する公共施設やサービスを取りまとめ、市民サービスの拠点を形成する
5. 地域の教育環境の再編と連動、連携して地域ぐるみの教育に取り組む

～(仮称)南部コラボセンターの機能を補うサテライト機能の設置～

考えようまちの未来

庄内公民館での南部地域活性化ラウンドテーブル。
「とても発言しやすい雰囲気」と濱野さん



意見を生かして南部地域 なごびではの拠点をつくろう

南部地域連携センター（庄内公民館）では、平成25年（2013）11月から、南部地域活性化ラウンドテーブルを開催しています。これは、参加者がグループに分かれ、自由に意見を出してもらおうと合意で、「教育」「地域活性化」「防災・防犯」などをテーマに会を重ねてきました。

今年5月の4回目には、21組の親子が参加して、乳幼児の子育て・子育てを中心に地域で困った経験や新しいセンターに望むことを話し合いました。「どんな世代でも利用できるセンターになってほしい」と発言したのは、現在1歳の子どもを育てる濱野麻利さん（三和町）。今は子どもに多くの時間を割いていますが、子育てが終わった後

に何をしようかと困るのではないかと思ったからだそうです。「何歳になっても通えて地域に関われる場がいい」。また、ラウンドテーブルに参加してみても、「自分の希望どおりになるかどうかは別としても、まちの人たちの思いや考えを聞いてくれることがうれしかった」と感想を話してくれました。



濱野麻利さん（三和町）

主催している南部地域連携センターの高山順一センター長は、毎回参加者から前向きな意見が出て心強いと言います。「『庄内が好きだ』『南部は子育てがしやすい』と皆さんはつきりと話します。また、アイデアや課題についての発言も多い。外国人も参加していて、まちの設置物に英語表記が少ない不便さや言葉が分からず引きこもってしまう話などもありました。いろいろな意見から、（仮称）南部コラボセンター基本構想がまとまりましたが、今後多彩な意見が、イベントや新しいセンター作りの礎になると感じています」。



高山センター長

私が思う南部地域

（仮称）南部コラボセンターに期待しています！



野口るみさん（二葉町）

結婚を機に庄内に住んで8年になります。物価は安いし、交通も便利。すっぴんここでの暮らしが気に入っています。

庄内公民館の登録子育てグループに入ってからはお母さん友達もでき、子どもが大きくなった今もずっと付き合いが続いています。南部は少子化が進んでいるといいますが、こうした場に行けば仲間に出会えます。それと互いに誘い合っていて、次も参加しようという雰囲気がこの地域の良さ。

子育て仲間同士、じっくり話したいときもあります。子どもと一緒に入れるお店は少ないし、多人数が集まるときは、どうしても誰かの家になってしまうのが現状。その点私は子育てグループの活動で公民館を利用し、充実した時間を過ごせました。（仮称）南部コラボセンターが子育て世代だけでなく、誰もが気軽に使える場であってほしいと思います。

基本構想実現のために ラウンドテーブルで

話そう、

ラウンドテーブルなどでの意見をもとに事業が進んでいます

子育てほか 暮らしのサポート

子育てしやすいまちをめざして、登録グループの活動をはじめ、親子で参加できるさまざまな事業を実施しています。今年2月には、「子育て応援フェスタ キッズランドしょうない」を開催。多くの地域団体が参加して「面白くてためになる」をテーマに、子どもダンスステージや編み物体験、パパのためのベビーマッサージとママが助かる育児の話などが行われ、1,500人が来場しました。



子どもの前髪カットなど役立つ講座で子育てを応援

歴史やものづくり 地域の魅力発信

南部地域には古代から続く歴史、商店街のにぎわい、多くのものづくり企業、そして、大阪音楽大学・短期大学(庄内幸町)といった地域資源があります。これまでも、地域の人による歴史講演や、地域の事業者を講師に招いた催し、大阪音楽大学関係者によるコンサートなどを実施しています。

今後も、そうした資源を生かした事業を進めて地域内外に魅力を発信していきます。



地元企業の工場見学も行いました



楽器紹介も交えたクラシックコンサート

次世代育成事業

学習支援として、小学生を対象に教職志望の大学生による夏休み学習サポートを開催。また中学生には大学生と学習指導経験者ほかによる学力向上支援事業(日曜学校)を実施しています。これらの事業を通じて、学校などの後方支援拠点となることをめざしています。



大学生が企画したプチ授業が面白いと評判

(仮称)南部コラボセンター基本構想の策定に当たって開催したラウンドテーブルは、今後も庄内公民館で行う事業の検討や企画を担う人の発掘をめざして継続していきます。ぜひ気軽に参加してください。

南部地域活性化 ラウンドテーブル

教育・子育てを
テーマに開催

▶とき=10月3日(金)

①13時~15時

②19時~21時

▶対象=

①小学生の子どもがいる保護者

②中学生の子どもがいる保護者

▶申込み=10月2日(木)まで

(仮称)南部コラボセンター基本構想についての詳細は、市政情報コーナーや市ホームページでご覧になれます。

問合せ=南部地域連携センター(庄内公民館) ☎6334-1251